

小麦の製粉特性からみた刈取適期					
<p>[要約] 小麦の製粉特性からみた刈取適期は成熟期後4～5日であり、容積重、フォーリングナンバーおよび粉の色相が安定して優れている。粉の色相は、成熟期以降に降雨があった場合でも成熟期後4～5日が最も優れている。</p>					
担当部署	農産研究所・栽培部・作物品種研究室			連絡先	092-924-2848
対象作目	麦	専門項目	栽培	成果区分	技術改良

[背景・ねらい]

小麦のコンバインによる収穫適期は、成熟期後4日頃の水分含有率25%以下となった時点である。しかし、小麦の民間流通への移行に伴い、品質への実需者からの要望が高まっている中、製粉特性をも考慮した刈取適期を明らかにする必要がある。そこで、小麦の高品質化へ向けた生産技術を確立するため、製粉特性からみた刈取適期を明らかにする。

(要望機関名：農業振興課(H12))

[成果の内容・特徴]

- 1．容積重は成熟期では明らかに低く、成熟期後4～5日で最大となる(図1)。
- 2．フォーリングナンバーは成熟期後4～5日が最も安定して高い(図1)。
- 3．粉の色相は成熟期では明らかに劣り、成熟期以降降雨のあった年では、成熟期後4～5日が最も優れ、降雨が少なかった年では刈取が遅いほど優れている(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．高品質小麦生産のための基礎的資料として活用できる。

[具体的データ]

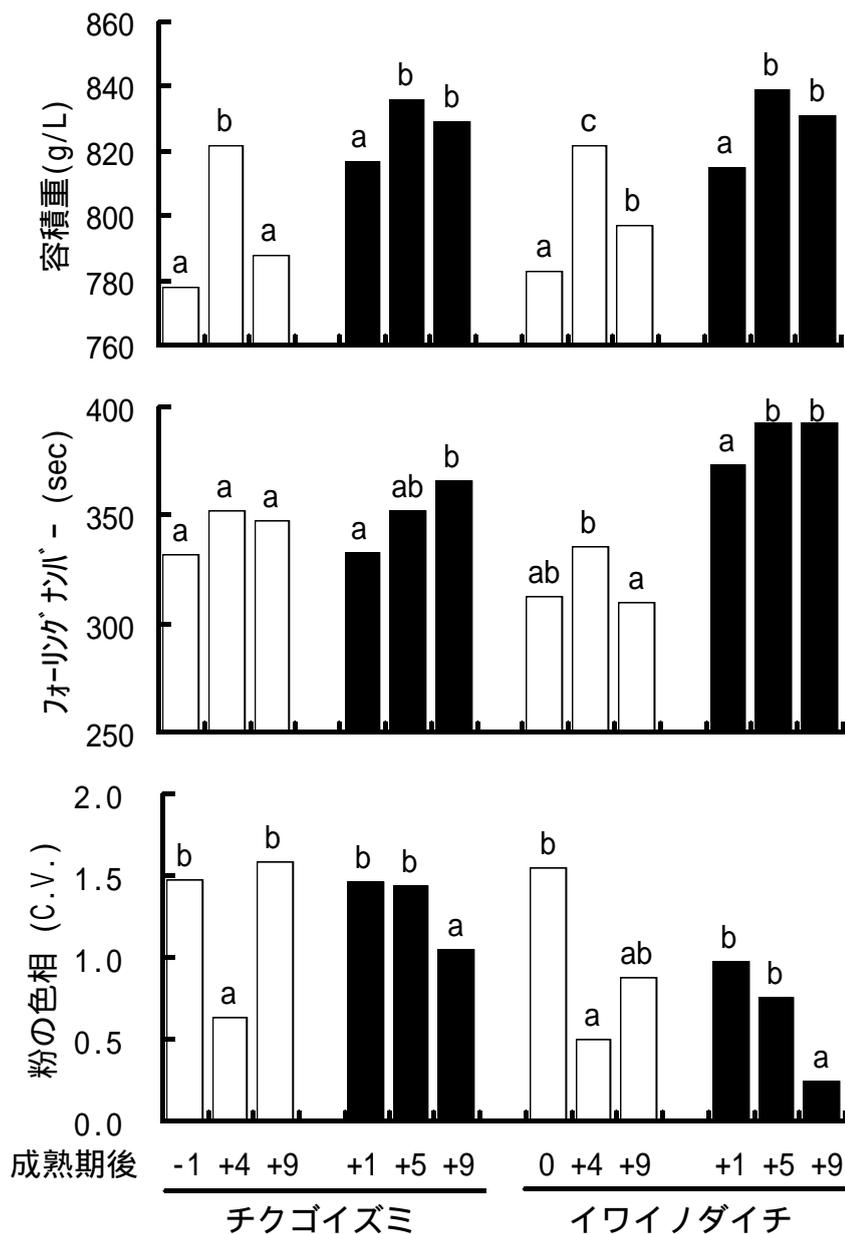


図1 刈取時期別の容積重、フォーリングナンバーおよび粉の色相

- 注) 1. は平成13年産 (成熟期後、断続的な降雨あり)、
 は平成14年産 (成熟期後、降雨1日のみ) を示す。
 2. 容積重はブラウエル穀粒計による測定値。
 3. 成熟期とは 'ろう' 程度の硬さに達した穂が全体の80%を占め、
 水分含有率30~35%の時点とした。
 4. 粉の色相は数値が小さいほど、粉色が優れる。
 5. 図中の同一英文字間には、5%水準で有意差がないことを示す。

[その他]

研究課題名：作期の早進化のための秋播型小麦品種の選定と生育・品質の特性解明

予算区分：国庫受託 (21世紀プロ)

研究期間：平成13年度 (平成12~13年度)

研究担当者：佐藤大和、内村要介、尾形武文、松江勇次、陣内暢明